

① 伊藤桂一「帰郷」抄（短篇名作選『水の景色』構想社、昭和五十九年）

満七年の軍務を終えて、上海から佐世保港に帰ってきた私は、母と妹の疎開先である伊勢川島の源さんの家を訪ねた。戦地にいる私と、内地にいる母との間では、もし何かあれば源さんの家に連絡すればわかる、という申し合わせができていた。

汽車を四日市の駅で下りた時、私は、町並が一望焼野ヶ原になっているのに胸を痛めたが、その焼野ヶ原の中心に、諏訪神社の石の鳥居だけが、崩れずに悲壮に立っているのが、奇妙に印象深かった。諏訪駅へ行って湯ノ山線に乗り換えたのだが、その途中、リュックを負うて帰って来た私の姿をみかけると、すれ違う人たちがみな、駆け寄ってくるように近づいてきて「あんたはん、嵐の方と違いまっか」と口々にきくのである。嵐部隊は、中国南方で戦っていると思うので、まだしばらくあとでないと帰国できないでしょう、私は東京に籍を移したので東京の部隊に所属し、上海からもどってきたのです、と、いちいち答えたが、答えながらやはり胸が痛んだ。南方では死傷が多く出ているはずである。嵐というのは嵐兵団のことで、三重県では津の歩兵第百三十三聯隊が編制に入っている。

復員部隊のことは、毎日、新聞に記事として出るので、私が、源さんの家へ着いた時は、玄関先に出てきた源さんの細君のおしげさんも、待っていた、といわんばかりの表情で私を迎えてくれ、挨拶がすむなり、

「おっ母さまと、あんたさんのもどられるのももうじきじゃろういうて、毎日毎日噂しておりましたがな。そりやまア、ようご無事でおもどりなされましたなア。みなさんお元気で待っとられます。ちょっと一服して行きなされ。案内しますけに」

そういつて、私を迎え入れて労をねぎらってくれる。おしげさん夫婦には息子がひとりいるのだが、名古屋に勤めがあるので、家にはおしげさんと源さんと、おてつ婆さんしかいなかった。私が、何より先におてつ婆さんの安否をきくと、

「婆さまもな、あんたさんがいつもどって来なさるやろ、それまでは死ねんなあと、毎日いうとりましたわ。会うてやとくんははれ。もっとも、もう眼もみえんし、ただ寝とるだけですがな。耳も遠うなっておりますしな」

と、おしげさんはいう。年をきくと、おてつ婆さんはもう九十三になるという。

おてつ婆さんは、奥の座敷に、ひっそりと置物のように寝かされていたが、おしげさんが、

「ばあさんや、お前の待ったお人がもどりなされたぞな。阿弥陀さんをよう拝んどったで、こないにして無事にもどられたぞな。ありがたいことじゃな」

と、耳もとでいうと、婆さんは、皺だらけの顔をにこにこゆがめて、数珠でもまさぐるようにして私の手をとると、

「ようぶじでござったなア。あみださんとお父っつアまがまもってくださったのじゃ。ありがたいものじゃな」

と、感をこめていったあとは、ナンマンダブをくり返している。昔から念仏ばかり

をとなえてきた人である。もう半ばはこの世を離れかけている。静かな老い方である。そのお婆さんの手を握ってやっていると私は、軍務に向けて発つ前に三ノ瀬を訪ねた折、お婆さんと会った時のことを思い出した。あの時もひどく老人だったが、いまはさらに老人である。

「ほんに、よう、ぶじで帰っておくれじゃったな。このまえ、おまはんがみえたのは、たしか九年前の夏のころであったな」

年月の記憶だけはふしぎによい。そういつて、ほっほっと、声のない笑いをうかべたあとに、つづける。

「わしもな。もう半分は死んだも同然じゃ。こうしてのう、あけてもくれても寝たきりじゃで、あみださまをおがむほかには、もうなんのたのしみもないわな。それでもこうやって寝ながら、ああいまごろ、おまはんはどうしていなさるやると、しょっちゅう案じとったぞな」

そして、ぶつぶつと、口のなかで、ナンマンダブをくり返す。

その老人の、ぼそぼそとした、ひとりごとめいた言葉をきいていると、この老人ひとりを喜ばせるためにも、とにかくこうして、生きてふるさとの一角にたどりつけたことは、ありがたいことだったのだ、という気がしたのである。実際には、私自身の心の底には、悲愁感や虚脱感、生活への不安感などがつめ込まれてもいたのだが、いつとき、暗い思いは忘れる。

**作者プロフィール 伊藤桂一**（大正六年〈一九一七〉～ ）小説家、詩人。現・四日市市寺方町の天台宗高角山大日寺生まれ。働きながら詩や小説を執筆、投稿。昭和十三年（一九三八）現役入隊、除隊期間をはさんで六年十カ月、中国で軍務につく。復員後も貧窮の中で投稿生活をつづけ、昭和二十七年、「雲と植物の世界」で芥川賞候補。昭和三十七年『螢の河』で直木賞受賞。昭和五十九年『静かなノモンハン』で芸術選奨文部大臣賞、吉川英治文学賞受賞。平成十九年（二〇〇七）詩集『ある年の年頭の所感』で三好達治賞受賞。『遙かなインパール』ほか著書多数。